

# 津波災害と学校

学校に課せられた緊急時の役割とは？



津波で孤立した仙台市若林区の荒浜地区では荒浜小学校が唯一の避難場所であり、周囲にはここ以外の避難場所は見当たらない。以前から繰り返し避難訓練を行ってきたためか、避難者の受入れ態勢は学校長の指揮のもと円滑に行われ、生徒や教師、地域住民など320人が避難し救助された。

東日本大震災 仙台市震災記録誌～発災から1年間の活動記録～、仙台市、平成25年3月より引用

# 東松島市立野蒜小学校



津波の浸水高は野蒜駅付近で約6m, それより奥地の野蒜小学校付近では約5mに達していたとのこと。体育館への避難誘導が津波被害を大きくしたとされているが, 海岸線から1kmも奥まった当地で果たして適格な判断が下せたかどうか疑わしい。同じ東松島市の大曲小学校も浸水高1.5~2mの津波に襲われたが, 避難場所を体育館から3階建校舎に切り替え事なきを得ている。

# 石巻市立大街道小学校

サイン

「SOS」。学校の屋上に避難し、サインを送って救護を求める人たち＝12日午前7時40分ごろ、石巻市



被災の翌朝、河北新報社のカメラマンに撮影されすぐの救助を期待したが、場所の特定が遅れたため、その後の10日間を孤立状態に置かれた。津波の浸水高は約3mであった。

河北新報特別縮刷版 3.11東日本大震災1カ月の記録, 竹書房, 2011.6.27

河北新報社: 河北新報のいちばん長い日ー震災下の地元紙, 文藝春秋, 2011.10.30

# 石巻市立門脇小学校



学校に居た児童たちは，教職員の誘導によって全員が背後の日和山に避難することができた。しかし，その後に発生した津波火災によって，校舎に避難してきた市民に犠牲者が出た。

撮影：2011. 8. 11

# 石巻市立大川小学校

撮影：2013. 6. 1

津波浸水高：約 7 m

津波遡上高：約 9 m



北上川を河口から 4 km 以上も遡った地点に位置する大川小学校では、津波に対する避難行動もとれないまま、児童108人中74人、教員11人中10人という夥しい数の犠牲者を出している。何とも痛ましいことであるが、二度とこのような災害を起こさないためにはどうしたら良いか、ハードとソフトの両面から津波対策を緊急に準備する必要がある。

# 大川小学校の詳細

撮影：2013. 6. 20.



津波は校舎の中でも荒れ狂い、2階の床を下から持ち上げていた。



← 渡り廊下には地震動(柱脚の破壊)と津波(校庭側からの横向き力)の2つの力が作用したらしい。